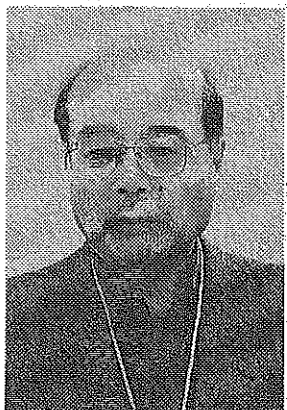




荷重をかけてブリッジの強度を測定



太田支部長

その強度や精度など、設計・施工能力を競い合った。

今年のコンテストは、従来の「タワーコンテスト」から「ストラクチャーコンテスト」に名称を改めており、

予め定められた道具で作品を完成させ、プレゼンと測定を実施。

地盤工学会関東支部(太田秀樹支部長)は11日、「第5回学校対抗ソイルストラクチャーコンテスト」を日本大学船橋校舎(船橋市習志野台)で開いた。

人が参加。それぞれが創意工夫し、ソイルブリッジ(砂製の梁)を作製。

学生5チーム

設計・施工能力など競う

### 地盤工学会がコンテスト



総合優勝した日本大学の生徒ら

優勝を果たしており、評価基準のソイルブリッジは0.82だった。

懇親会で太田支部長は、「前回も参加して、優勝を持っていった和歌山高専が不参加なのは悲しいし、少し心配」と昨今の

好結果に繋がった」と分析。また、同学科生の武藤由里菜さんは「直前の練習や、先生方のアドバースが実を結んだと思う。

# 日大理工学部が優勝

## 地盤工学会関東支部

## ソイルストラクチャーコンテスト



優勝した日本大学理工学部学生グループ

地盤工学会関東支部の主催による「学生対抗ソイルストラクチャーコンテスト」が11日、日本大学理工学部船橋校舎(千葉県船橋市習志野台)内で開催された。

同支部では06年度から学生会員を対象に「ソイルタワーコンテスト」を開催してきた。

「ソイルストラクチャー



「コンテストの模様」

コンテストに改めて競技内容を一新。これまで

体の強度を計測した後、ソイルブリッジの実際の耐荷重を載荷台で計測した。

した結果だ」と学生らをたたえた。同チームリーダーの越川さんは「コンテスト前の練習ではうまくいかなかったこともあったが、チーム一丸となつて本番で力を発揮できた。

事前に用意された砂、砕石、山砂、ローム、粘度の5種類の地盤材料を自由に配合し、突き固めて供試体を作製。

同学科の峯岸邦夫専任講師は「梁設計の基本的な説明は行ったが、特段の指導はしなかった。優勝は学生が自ら考え努力

審査委員長を務めた中央大学研究開発機構の太田秀樹教授は、「今回、工業高等専門学校が1校もなかったことがとても残念。高専には、いつも優勝をさらわれていた。今日は久しぶりの大学生の優勝だった」と講評した。

日刊建設工業新聞

(平成二十二年十二月十四日)